

平成22年3月期
決算説明資料

平成22年5月17日

 **川重冷熱工業株式会社**

平成22年3月期 決算概要

平成22年3月期の総括



当事業年度の当社の受注高は、国内市場環境の悪化により当社の主力機種である大型貫流ボイラをはじめとする機器本体が減少したことに加え、改修改造工事・メンテナンスの減少により、前期比11億20百万円減少の156億41百万円となりました。売上高は、空調機器本体の前事業年度末の受注残高が少なかったことならびにボイラ機器本体が大型貫流ボイラを中心にほぼ全ての機種で減少したことと改修改造工事・メンテナンスの減少により前期比10億1百万円減少の163億17百万円となりました。

利益面では、諸費用の削減・コストダウンに努めた結果、営業利益は、前期比4億30百万円増加の6億10百万円、経常利益は、前期比4億52百万円増加の6億12百万円、当期純利益は、当社の関係会社である同方川崎空調設備有限公司（中国）への出資金の評価損を特別損失として計上したものの、前期比2億66百万円増加の1億44百万円となりました。

平成22年3月期 損益計算書



金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
売 上 高	17,319	16,317	94.2%	市場環境悪化に伴う減少による。
売上総利益	4,250	4,425	104.1%	諸費用の削減による。
販売費及び一般管理費	4,071	3,814	93.7%	諸費用の削減ならびに研究開発費の減少による。
営業利益	179	610	340.8%	
営業外収益	30	15	50.0%	
営業外費用	49	12	24.5%	
経常利益	159	612	384.9%	
特別利益	29	-	-	
特別損失	306	191	62.4%	
税引前当期純損益	116	420	-	
法人税、住民税及び事業税	50	236	472.0%	
法人税等調整額	44	40	-	
当期純損益	122	144	-	

平成22年3月期 貸借対照表



資産の部

金額単位：百万円（百万円未満切捨て）

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動資産	8,298	8,865	106.8%	
現金及び預金	13	9	69.2%	
受取手形・売掛金	5,983	6,463	108.0%	3月売上高の増加による。
棚卸資産	1,297	1,251	96.5%	
繰延税金資産	287	343	119.5%	
その他	716	797	111.3%	
固定資産	3,758	3,423	91.1%	
有形固定資産	1,762	1,718	97.5%	
無形固定資産	216	260	120.4%	
繰延税金資産	1,250	1,150	92.0%	
投資その他の資産	529	293	55.4%	関係会社出資金評価損の計上による。
資産合計	12,057	12,289	101.9%	

平成22年3月期 貸借対照表



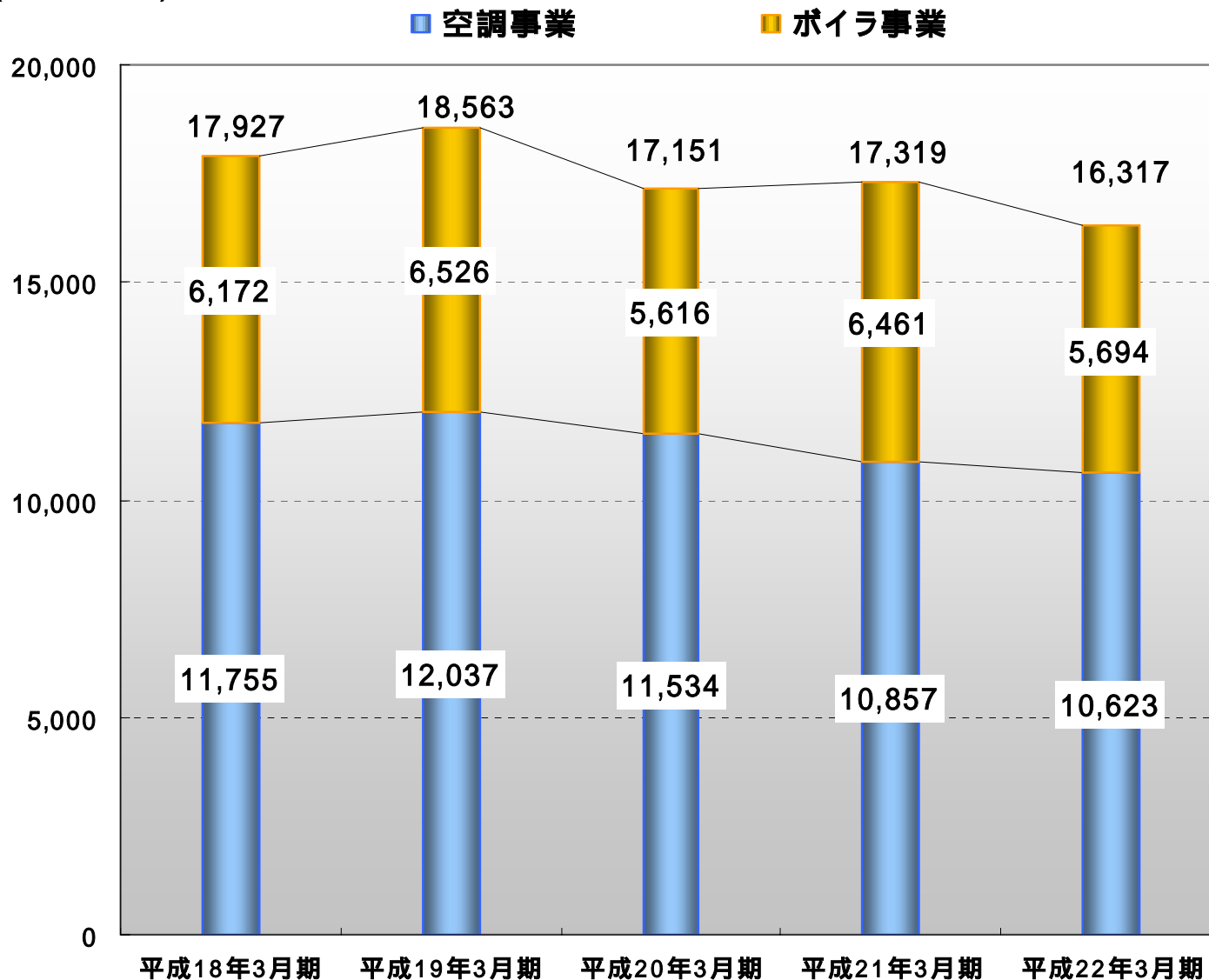
負債・純資産の部

金額単位：百万円(百万円未満切捨て)

	前 期	当 期	前 期 比	備 考
流動負債	4,940	5,328	107.9%	
支払手形・買掛金	3,705	3,684	99.4%	
前受金	39	41	105.1%	
未払金・設備支払手形	153	173	113.1%	
その他の流動負債	1,041	1,429	137.3%	未払法人税等の増加による。
固定負債	3,040	2,787	91.7%	
退職給付引当金	2,902	2,676	92.2%	
その他の固定負債	138	110	79.7%	
負債合計	7,980	8,116	101.7%	
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,392	1,486	106.8%	
(内 当期純損益)	122	144	-	
自己株式	14	15	-	
株式等評価差額	9	13	144.4%	
純資産合計	4,076	4,173	102.4%	
負債・純資産合計	12,057	12,289	101.9%	

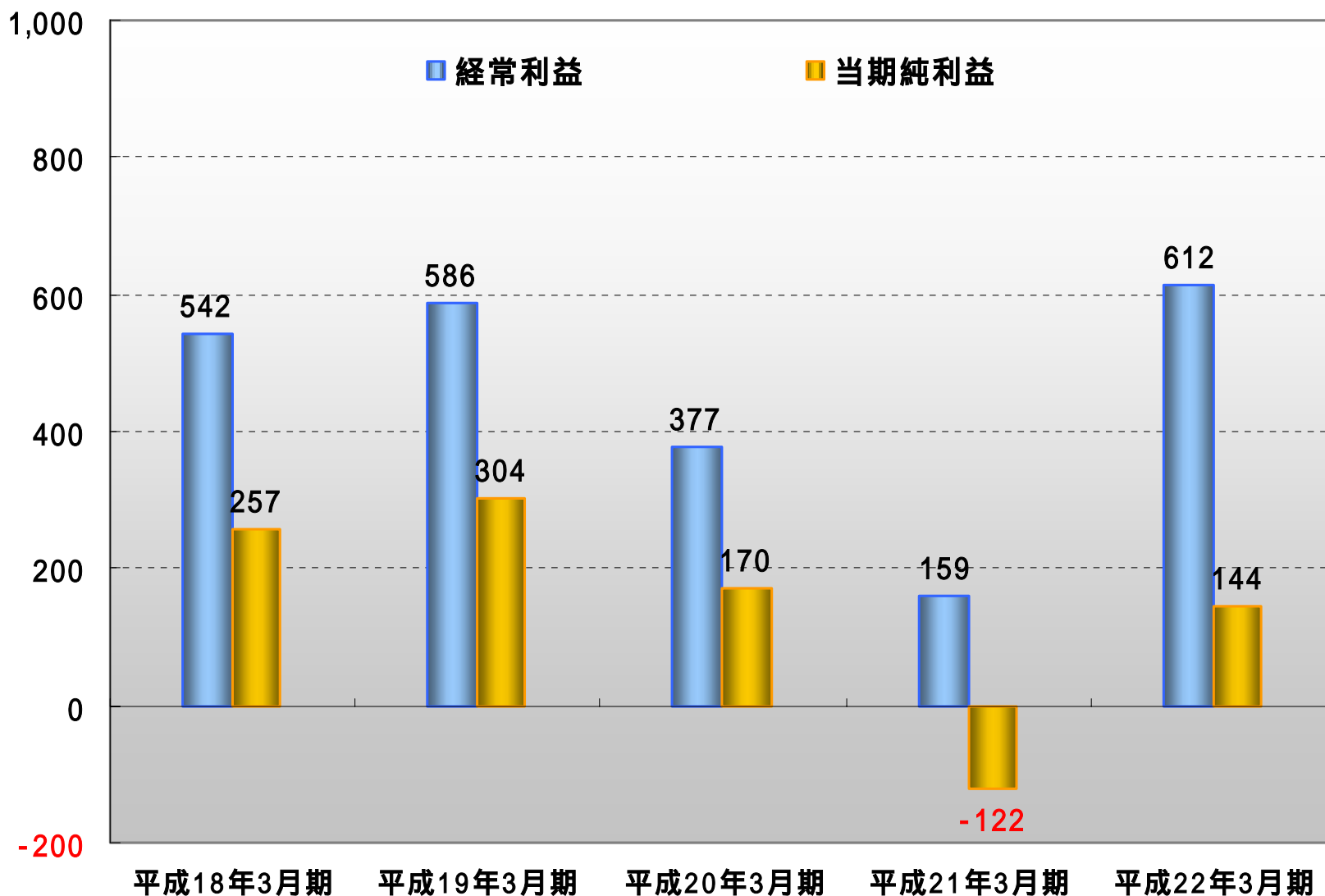
売上高の推移

(単位:百万円)



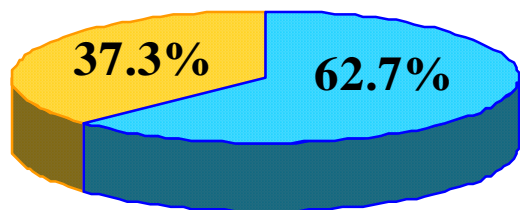
利益の推移

(単位:百万円)



売上高構成比の比較

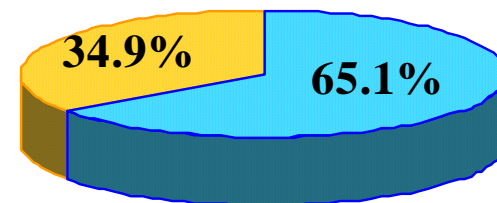
ボイラ事業



空調事業

平成21年3月期

ボイラ事業



空調事業

平成22年3月期

空調事業

機器本体の売上高は、大規模商業施設等で使用される大型吸収冷温水機が減少したため、前期を下回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、オーバーホール等の工事が若干増加したものの年間保守契約が減少したため、前期を下回りました。

ボイラ事業

機器本体の売上高は、コージェネレーションシステム等に使用される排熱ボイラならびに大型貫流ボイラ等が減少したため前期を下回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、省エネ改造等の工事が減少したため、前期を下回りました。

平成23年3月期 業績予想

平成23年3月期の業績予想



金額単位:百万円(百万円未満切捨て)

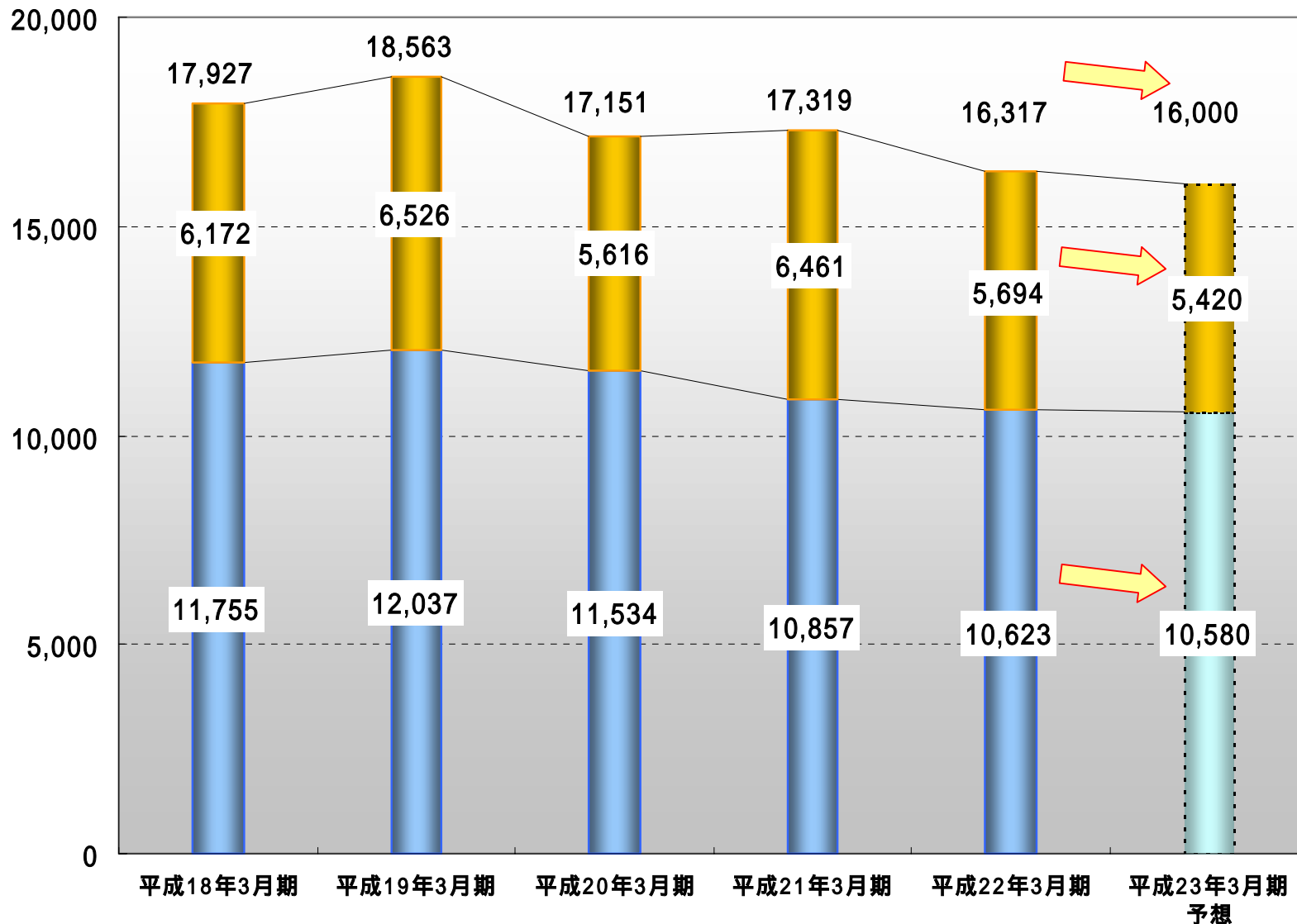
	当 期	来 期(予)	前 期 比	備 考
売 上 高	16,317	16,000	98.1%	
空調事業	10,623	10,580	99.6%	
ボイラ事業	5,694	5,420	95.2%	
営業利益	610	315	51.6%	
経常利益	612	300	49.0%	
当期純利益	144	150	104.2%	

売上の推移(予想)

(単位:百万円)

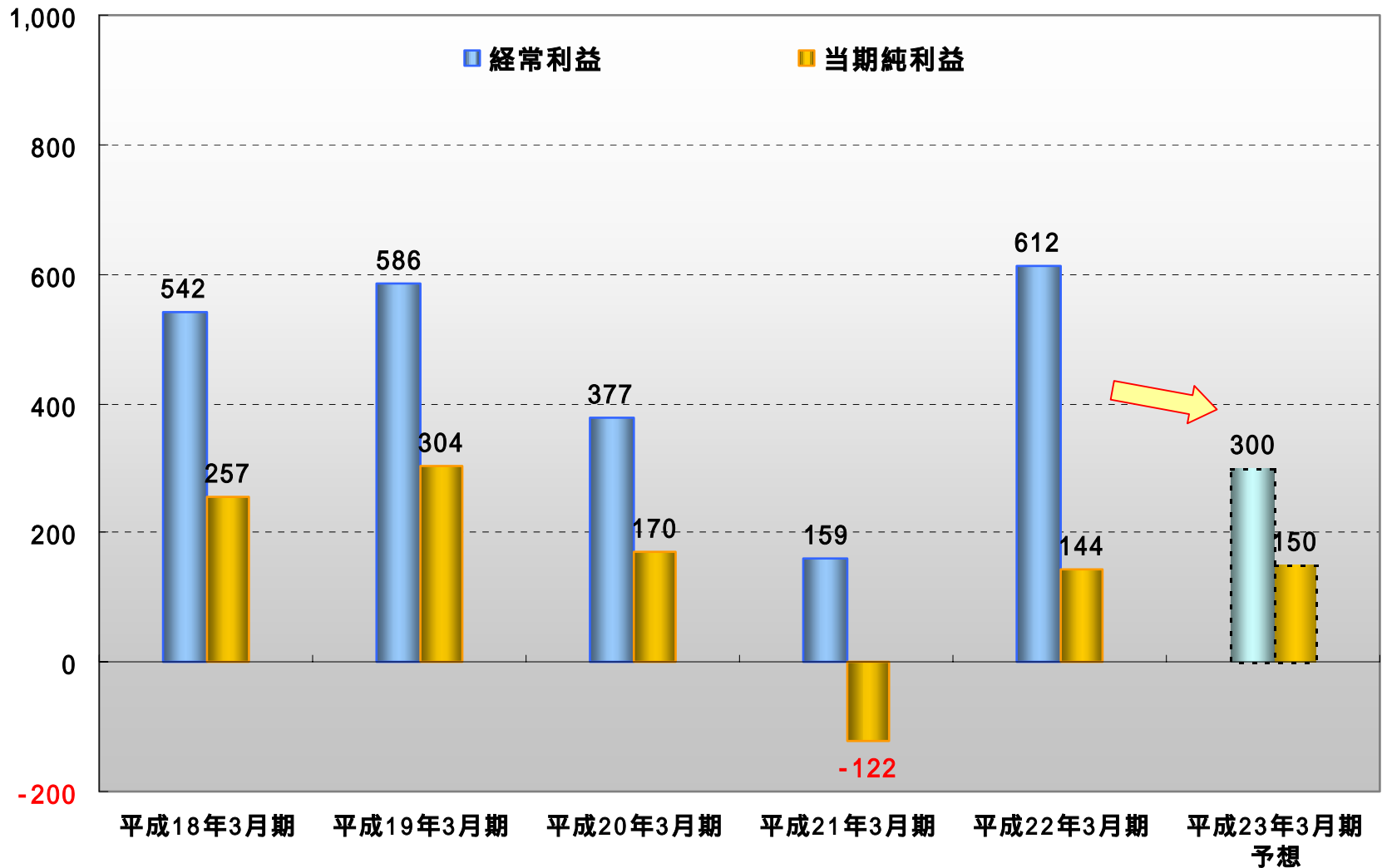
■ 空調事業

■ ボイラ事業



利益の推移(予想)

(単位:百万円)



空調事業

機器本体は、東京ガス、大阪ガス、東邦ガス3社が運営する「吸収式グリーン制度(05基準)」によりグリーン機に選定されたシグマE-ス1.43シリーズと三重効用吸収冷温水機により省エネルギー性を訴求し、拡販に努めます。

24時間遠隔監視のメンテナンスシステム「テレメソテ」の活用および省エネルギー提案を積極的に行い、引き続き改修改造工事・メンテナンスの拡大に努めます。

ボイラ事業

大型貫流ボイラの新シリーズである「イフリートビート」の、省エネルギー性、制御性等の特徴をPRし、拡販に努めます。

改修改造工事・メンテナンスは、引き続き、省エネルギー改造を中心とした工事増ならびに年間保守契約の獲得向上を目指してまいります。

参 考

当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

当社の関連する空調業界では、環境性を考えて今後も省エネルギーおよび余剰エネルギーを有効利用する機器の開発が活発化していくものと思われます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化がないと思われます。

空調・ボイラ業界共に総需要は、景気に左右される傾向があり、新規需要に代わり、リプレース需要が増加してくると予想されます。

本資料に関する問合せ



川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。